



JAPAN INTERIOR DESIGNERS' ASSOCIATION

'64 2月号

目 次

- (1) 東京、大阪支部合同誌発刊に当つて
符野雄一
- (2) 会報の合同、設計報酬規定を決定
—2月8・9日大阪での理事会—
- (3) 1964年度本部事業計画及び予算案
- (4) 近代美術をテーマに
—大阪1月例会、一河本教授の講演—
- (5) 日東紡績の建材を照介
—東京支部2月例会—
- (6) 理事会準備と議案審議
—大阪支部委員会—
- (7) 「私のふれてきたソ連と東欧諸国のデザインと店舗の新しい傾向」
—川喜田煉七郎—
- (8) 年3,600円に、準会員会費値上
- (9) 業界ニュース
 - ◎会長に 布川氏再選＝日 家 工＝
 - ◎デザイン審断の手引＝中小企業センター＝
 - ◎全家工連結成さる
 - ◎生産額2,500億円に＝木製家具伸び続く＝
- (10) 会員の近況
- (11) 事務局だより
「外国作品登録を進めよう」差し込み

日本室内設計家協会

東京、大阪支部合同誌発刊に当つて

戦後の新しいデザイン運動の芽ばえが生れはじめたのは昭和27.28年頃と記録されます。それからすでに10年日本の各分野のデザイン活動は、その質と、巾においてすばらしい発展をとげました。昨年はJ.I.D.A. デザイン学会、日本流行色協会など、2.3のデザインの関係団体がそれぞれ創立10周年を迎えたことは喜ばしいことであり、同時に創立から現在にいたるまでのパイオニヤーの人々の献身と努力に改めて敬意を表せざるをえません。私達の日本室内設計家協会(J.I.D)も満5年を経過し、新しい次のステップを踏もうとしています。若し一つの業績が10年を一つの区切りとすれば、その後半期に入つたとみるとことができます。次のステップとは、今までの主として内部体制整備の段階から外部への積極的活動体制への姿勢であります。

このような体制への活動の一環として従来私達の唯一のバブリッシーともいふべき会報は東京、大阪各支部からそれぞれ発刊されていましたが、今般合同発刊によつて、よりその効果をあげ、新たな発展にそなえることになりました。この新しく生れる会誌を会員の各位がよく育てていただくことをお願いします。

昭和39年2月18日

理事長 狩野 雄一

会報の合同・設計報酬規定(プロダクト)を決定
次年度事業計画及び予算も

2月8、9日大阪での理事会

昨年秋以来開催がのびていた理事会兼東西合同委員会は2月8、9日の両日にわたって、和歌山に近い大阪府下淡輪の大丸保養所で、8日は山口、渡辺両支部長、9日は狩野理事長を議長として開かれ大阪支部長渡辺敏雄氏の開会の挨拶の後、次の様な事項を決定しました。

(出席理事)

理事長＝狩野雄一

理事＝山口勇次郎、渡辺敏雄、飯田俊彦、豊口克平、樋口治、中村圭介、川崎浩(委員代理)、藤川宏允(委員代理)、野口茂(委員)、竹内篤(委員代理)

— 敬 称 略 —

(1) 1964年度本部事業計画案及び予算

別稿のような事業計画及び予算案が中村理事より提案され予算案を一部訂正し決定された。討議の中心は協会の性格についてどう認識すべきかにあつたが、広く室内デザイナーの集つた学会的性格の団体でありながら、一面では職業的デザイナーを含む現状を認識し、会員デザイナーの良心と自主性を基礎にし、会の運営を計ることにした。当面は会員の増加に重点を置き若い人達の加入によつて実際活動の原動力を作る。

尚、協会への業務依頼については公共団体等公的性格の強いものは理事会、委員会等で取り上げ、その他の営利的なものについては作品登録等により自主的に選定していただく方針とした。

(2) 海外視察団派遣の件

前号で発表した日程をもとに旅行団を派遣することを決定した。海外視察だけでなく、今後のインテリアデザイナーの国際交流のきっかけを作る様努力する外、適当なテーマを設けて各国の設計者とディスカッションするように努力することになった。尚、会員の所属する会社に対しては、昨年度の参加者名や渡航条件等を紹介する等案内状を発送する。

(3) 月報の合同発行について

今迄、東京、大阪両支部で別々に発行していた月報を統合し本部で発行することになった。

内容は東京支部の月報に準じ、更に、会員の研究発表等を加え、内容の充実を計ることにした。尚表紙裏には賛助会員等を対照に3ヶ月で1頁10,000円（非会員倍額）程度の広告を取ることにした。

イ．原稿締切＝毎月10日迄に本部に原稿提出

ロ．発行日＝毎月20日

ハ．発行者＝本部事務局

ニ．発行責任者＝理事長

ホ．各支部原稿依頼者＝両支部事務局長

ヘ．配布先＝会員（正・準・賛助及び関係官公庁、学校、新聞、

雑誌社等

ト、内 容＝事業報告、本部支部報、研究的事項、本部支部
便り、会員便り、作品案内

(4) 本部会計の確立並びに本年度支出金の承認について

今迄東西両支部で保管していた本部会費繰越金等を、本部に集
め本部会計を分離する。

本年度支出金については、

イ、事務所開設にあたり、必要とした什器、人件費、家賃等は東
京支部と半々に負担する（12月末迄に83,200円本部負担）

ロ、協会の案内（賛助会員募集並びにPR用）その外入会申込書
封筒、通信費等116,400円

ハ、理事会開催の費用

ニ、2月、3月の月報の費用

等の支出を認め、年度末をまつて決算する。

(5) プロダクトデザイン報酬規定

未定だった依頼料（新規設計）契約金（既存の設計）について
決定し、別に「会員の業務並びに報酬規定」として一昨年決定を
見たインテリアデザインの規定と共に完全なものを作成し会員に
配布する。

(6) 定款改正の件

東京大阪両支部の意見の相違を調整し、大阪支部に原案起草を
一任した。

但し、準会員会費については、新年より別記のように改正する。

(7) 九州支部結成の促進

北九州地区で入会希望者がいるので現在大阪、東京両支部に所属している会員を含め10名以上になつたら支部結成を認める。結成までの担当委員としては山口理事に御苦勞を願う。その他の地区でも同様の方針でのぞむ

(8) その他

(イ) 賛助会員の勧誘について東西両支部の進行情況を点検し新年度までに完了するよう促進することにした。

(ロ) 入会及び退会

入会承認＝森谷延周氏（東京）

脱会承認＝剣持 勇氏（東京）

近間五郎氏（東京）

1964年度本部事業計画案

☆ 基本方針

前年に引き続き本部組織の確立に努め、対外活動を通じて協会の社会的発言力を強める。

会の活動を強化することによつて会員の増加を計り、合せて、室内設計家の社会的地位の確立に努める。

☆ 具体方針

1. 組織の強化

定款の改正を進める外、理事会を2月及び8月に定期に開催すると共に、理事長、支部長会議を設け、緊急事項を処理する。賛助会費の増加等により、財政の確立を計り、活動を強化する。

2. 会報の統合

東京及び大阪両支部で別々に発行していた会報を統合し、内容の充実を計る。

3. 海外視察団の派遣

前年に引き続き海外視察団を派遣する。

4. 標準仕様書の作成

家具インテリア工事の標準仕様書を起草し決定する。

5. 作品登録の促進並びに出版の準備

会員の作品登録を促進し、作品集出版の準備を行う。

6. 関係団体との協力事業

イ．日本家具工業会主催の展覧会については別記の基本方針をもとに協力する。

ロ．日家工、ジェトロ、大阪デザイン、ハウス、中小企業庁等、関係団体の事業については、協会の方針にもとづき必要な協力を行う。

1964年度本部会計予算案

目'64.4.1～至'65.3.31

☆収入の部

科 目	金 額	摘 要
前 期 繰 越 金		未収入金<東京 人 円>を除く 大阪 人 円
本部費		
正会員負担分	336,000	年2,400円 東京90名 大阪50名(支部費別)
準会員負担分	12,000	年1,200円 東京10名 (")
賛 助 会 費	600,000	@20,000円×30口
雑 収 入	50,000	寄附金・会報広告代及び予金利息
合 計	998,000	

(繰越金は3月末決算後に収入に加算し支出面では予備金とする)

☆支出の部

科 目	金 額	摘 要
会 議 費		
(17%)		
理 事 会	96,000	理事会2回の旅費宿泊費 註(1)参照
小 委 員 会	38,000	小委員会・理事長・支部長会議の旅費 註(2)参照
庶務費		
(27%)		
人 件 費	104,000	事務局長手当月2,000×12ヶ月 事務局員給与の半額月5,000×14ヶ月 その他
交 通 費	20,000	事務局員定期半額・都内交通費・東西の連絡旅費等
消 耗 品 費	10,000	用紙・鉛筆代 その他
通 信 費	50,000	会報送料20円×160×12ヶ月=38,400 その他長距離電話代
賃 借 料	60,000	事務所家賃の半額 5,000円×12ヶ月
渉 外 費	15,000	接待費・年始広告代等
印 刷 費	10,000	議案・会員名簿等
光 熱 費	3,000	事務所電気・水道代等の半額
什 器 備 品	10,000	書籍棚
雑 費	5,000	振替手数料他
事業費		
(21%)		
会 報 費	180,000	一回15,000×12ヶ月
調査資料費	30,000	建築家具専門雑誌会員作品整理等
雑 費	17,000	
配布金	(30%) 300,000	賛助会費の1/2を支部会員数で比例し配布註(3)参照
予備金	(5%) 50,000	前期繰越金を加算する
合 計	998,000	

註(1) 理事会の予算

A 熱海開催の場合		4 1,2 0 0
内 訳	宿泊費 @ 1,0 0 0 × 1 5 名	1 5,0 0 0
	旅 費 2 等特急、準急料込	
	東京支部より 3 9 0 × 2 × 1 0 名 =	7,8 0 0
	大阪支部より 1.8 4 0 × 2 × 5 名 =	1 8,4 0 0
B 京都開催の場合		5 4,6 0 0
内 訳	宿泊費 @ 1,0 0 0 × 1 5 名	1 5,0 0 0
	旅 費 2 等特急料込	
	東京支部より 1.9 2 0 × 2 × 1 0 名 =	3 8,4 0 0
	大阪支部より 1 2 0 × 2 × 5 名 =	1.2 0 0

$$A + B = 9 5,8 0 0$$

但し理事会に出席する監事の旅費、宿泊費は理事と同様に取扱いが、理事に欠席者のある事を見込み予算としては計上しなかつた。

支部委員及び支部監事が出席する場合の費用は宿泊費のみ本部負担とし、旅費は理事に準じ、支部より支給するものとする。

註(2) 小委員会費、理事長支部長会議の予算

A 小委員会（熱海を想定）		2 2,9 4 0
内 訳	宿泊費 @ 1,0 0 0 × 8 名 =	1 8,0 0 0
	旅 費 2 等特急料込	
	東京支部より 3 9 0 円 × 2 × 5 名 =	3,9 0 0
	大阪支部より 1,8 4 0 円 × 2 × 3 名 =	1 1,0 4 0

B 理事長・支部長会議

理事会に準じ、東京又は大阪開催計 2 回 ----- 1 4,8 8 0

宿泊費 1,0 0 0 × 3 名 = 3,0 0 0

旅 費 9 8 0 × 2 × 3 = 1 1,8 8 0

$$A + B = 3 7,8 2 0$$

註(3) 6 4 年度末までに入金された賛助会費の配布基準となる会員数は次の通りとする。

東京 9 0 名 大阪 5 0 名

近代美術をテーマに

大阪 1 月例会

河本教授の講演と討論

1 月 2 4 日 (金) 1 6 3 0 ~ 2 0 1 5

於 珠 紅 屋

出席者 藤川、袴田、樋口 脩、本田、飯田 俊、金子、柏原、川崎
木村 健、松宮、新居、野口、岡村、常持、上辻、渡辺、
矢留、依田 1 8 名
会員外 約 1 0 名

昨夏、会員諸兄のアンケートと、それによる委員会の決定に基づく、各種の事業の一環として、協会発足以来初めて学識者による講演会を行い、京都工芸繊維大学、工芸学部、意匠工芸学科教授河本敦夫氏に御講演願ひ、河本教授を囲み、昨秋来例会毎に行つて来た討論会を引続き行つた。既に御存知の如く河本教授は美学の泰斗で、特にその近代美術に対する造詣は名だたるものがあり、当日は、その最たる近代美術の蘊蓄を我々会員の為に傾けられ、より解り易くする為、教授の収集された貴重なるスライド約 3 0 0 枚で補足され、3 0 名に近い会員等は 3 時間余熱心に聴講した。教授は特にメキシコに旅された時のスライド約 1 0 0 枚をも御説下され、メキシコに於ける民族的な迫力、何か異質ではあるがエネルギーに我々に迫るその陶片モザイク壁画のスライドは、強く会場を圧し、後の討論会に於ても、その中心を流れた。

以下は当日のメモですが何分充分に手が働かず、教授の意の半分

も記されていないと存じますが御許し下さい。

「近代美術」

河本教授

近代美術とは 20 世紀初頭より興つた抽象美術 (Abstract Art) ^{アブストラクト}
と ^{シュール・レアリズム} Sur réalisme (超現実主義) の絡み合による。自然を再現する
写實的、具体的な美術よりの離脱である。

○ ^{テーマ}主題性の圧制よりの解放

自然写實的な美術の文学的 ^{テーマ}主題の排除。

○ 線と色彩による画面の分割

何かを描くのではない。特種な主観よりの解放、更に進んで
文学的なものよりの離脱。ダイナミックなリズムの表現。

○ 美術の自立性

美術は自然に頼るべきでない。美術は美術でなければならな
い。芸術家の内面よりのものを直接打ち出すべきである。

○ 作曲の様式

音楽は音の構成により、その感情を打ち出している。美術も
作家の内面を表現すべきである。

何故このように自然より離脱しなければならなかつたか。

○ 神の力の喪失

ルネッサンス以後、神の力が失なわれ、その代りに現われた
のが自然である。自然科学、哲学の発展

自然の権威づけ。自然の合理的なもの、合理性に対し、人間
の知性、理性がこれを権威づけた。

○ 自然の權威よりの脱出。

自然の權威より脱出して、人間の尊厳を確立せんとする考えが出て来た。

○ 人間の理性、合理性よりの脱出。

自然の權威は、人間の知性、理性が与えたので、自然の權威よりの脱出は人間の理性的考え、合理的考えから脱出せねばならない。

○ 非合理性、偶然的世界への憧憬。

ナマ

生の生命の取り出し。

偶然の法の探り出し。

無意識に於ける創作。

パーソナリティの表現。

ナマ

生の生命の躍動

俗なもの、生きている生命の掴み出し。

デザインはマス・プロの型態の追求

非合理性、偶然性よりの美を次々出せるのはクラフトンかない。

光と動きとを取り入れることによつての偶然性による美を発見し持ち込む方向へ。

討 論

司会 木 村 健 次 郎

○ 近代美術と宗教との関係

一部には抽象化されているが残っている。

○ 近代美術のデザインへの導入について

例： 日生劇場

近代美術の内面的なものを掴む必要あり。

それがないと装飾過剰になる恐れあり。職人的になる。

近代彫刻の空間の握み方は抽象空間—透過空間であるが、デザインに於ける空間は現実空間—足で歩く、生活空間である。

○日生劇場について

デザインの追求の上で機能の追求に追われていると、時にはこれより飛び出して見たくなるのではないか。その一つが日生劇場として発展したのではなからうか。それも頷づかれるが、それがデザイナーとして消化されていなければならない。それが一つの発展への段階でなければならない。

○近代美術に於ける偶然性、個人性

近代美術に於ける偶然性、個人性は個人的趣味性になる恐れあり。

それが近代美術の欠陥で、それに気附いて、少し修正されて来ている。即ち美術に於けるパーソナリティーを考え、抽象より寧ろ少し具象的になつて来ている。

○建築のクラフト的性格

現在建築はハンド・クラフト的で、プロダクティブでない。

建築に伴うべき生産体系が未だプロダクティブな生産体系が生れていない為ではないか。現代形態として、ハンド・クラフト的偶然性を求めることなく、機械形態より生み出されるものによる偶然性を追求すべきである。

「日東紡績の建材を紹介」 東京支部 2 月例会

東京支部 2 月例会は理事会のため予定よりおくれ、2 月 15 日夜都道府県会館で日東紡績の建材の説明会として開催されました。

出席者 広田、小林、熊井、宮内、三宅、中井、中村、中西、野水、大泉、坂田、鈴木、高須、玉田、山岸、山本、山口、他 2 名

紹介された新建材は次の通りですが、ドイツと技術提携して近く製作を開始するビニロールは、カーペットとビニタイルの中間的なものでやわらかで洗いのきく材料として注目された。

「ニットーボー」新建材

ロックウール (岩綿)	保温、保冷、断熱、吸音材料。
スプレーテックス	スプレー方式(現場施工)による新しいロックウール。能率的で美しい仕上りがその特色です。
ミネラートン (ロックウール製天井吸音板)	完全な不燃性と優れた吸音効果、ユニークなデザインを持つ理想的天井板、米国 B.E. H.社(ボールドウィンヒル社)と技術提携。
ファイロン (硝子繊維+ナイロン糸補強 強化プラスチック採光波板)	住宅、工場の採光用屋根板、側壁、塀間仕切、各種の建具。 構造材料として特に強度と耐久性を要する本格的建築構造に採用できます。 米国ファイロン社と技術提携。

グラスライト (硝子繊維強化プラスチック採光板)	ファイロンほど高級ではないが、テラスの屋根その他ファイロンと大体同じ用途に使われる。
エンビライト (塩化ビニール採光板) ☆上記の品種は用途に応じて撰択することが最も理想的な使い方です。	ガラス繊維が入らないので本格的建築への利用には適しないが、一般家庭で手軽に使える普及用製品。
カーポート (ファイロン製組立式簡易ガレージ)	何処にでも場所をとらずに手軽につくれ美しいデザインが特徴。
ニットータイル (塩ビ床タイル)	伸縮性、変色のない理想的な床材料。
コンブリバンド (瀝青質発泡プラスチック)	オランダ・アスピトン社との技術提携による画期的な万能継目材料「完全弾性・防水」
メラニット (メラミン化粧板)	繊維メーカーの優れた色彩、意匠感覚を生かした斬新な最高級メラミン化粧板です。
ガラスカーテン (100%ガラス繊維のカーテン)	完全な不燃性で、独特のしょうしやな趣きがあります。
レックスネット (100%ガラス繊維の防虫網)	不燃性、防水性で永久に腐蝕の心配はありません。
リンガーかべ紙	生糸のもつ光沢と裏紙の色が混然と調和し格調の高いトーンをもっています。
ハイバロンかべ紙	特殊糸使いによる吸音効果が高く、重厚で北欧風な色調を誇っています。
不織布かべ紙	落ち着いた雰囲気の中に、不織布独自の柔かさをもつた理想的な壁紙です。
G I ヘルメット (ガラス繊維強化プラスチック製)	作業用と乗車用があります。

理事会準備と議案審議

＝大阪支部委員会＝

日 時 2月4日(火) 1300～1400

場 所 心齋橋筋 喫茶「マロン」2F

出席者 藤川・樋口脩・飯田俊・川崎・柏原・渡辺

議 題 理事会開催の件

1. 会場準備 大丸淡輪保養所を当日他の使用者を停止確保してある。川崎・藤川両氏で準備する。

2. 出席予定者 東京 狩野・中村由・大泉・豊口・山口勇各理事
竹内委員。

大阪 樋口脩・飯田俊・岡村・渡辺各理事・依田
監事・藤川・川崎・柏原・野口・各委員、
沢野支部監事。

3. 議事日程表 集合を8日(土)18.00、開会を18.30とし閉会
を9日(日)14.00とする。夕食は20.00としそ
れまでに本部事業計画を行う。

就寝23.00、起床7.30

重要議案3件(報酬規定、定款等改正、賛助会員)
を9日分科会とする。

4. 提出議題 (イ)本部事業計画及予算案並に中間報告の件

(ロ)海外視察団派遣の件

(ハ)プロダクトデザイン報酬規定の件

(ニ)定款等改正の件

(ハ)賛助会員勧誘の件

(ヘ)入会希望者、資格審査内規及入会希望者審査、
退会者承認の件

(ト)月報合同発行の件

(ハ)は専門委員に原案を送り、所要事項の連絡を
乞う。(ヘ)は少しでも勧誘する。(ト)(ト)は原案で提
出。(イ)は原案不明。(ロ)(ヘ)は東京の証明を詳細に
聞く。

5. 理事会役務分担 確認

散会する。

＝ 賛助会員勧誘の打合せ ＝

1 月 2 4 日 金 1 5 1 5 ～ 1 6 1 5

於 珠 紅 屋

出席者 藤川、袴田、樋口 怡、飯田 憐、柏原、野口、渡辺 各委員

依田 監事

賛助会員勧誘の件

渡辺委員長は 1 月 1 8 日 東京支部委員会に出席され、東京に於ける勧誘状況を聴取されたので、これを報告、大阪支部も名簿により、至急勧誘担当者を決定、勧誘を開始することとし、在席委員の分のみ内定す。

(勧誘方法)

- 勧誘は 2 名以上で先方に伺うこと。その 1 名は出来得る限り役員であること。
- 関係ある会員を選定し、勧誘状を持参すること。
- 口数は先方の関係より適当に決定すること。
- 先方会計年度により、年度内不可能な場合は、翌年度にても可。
- 賛助会員として加入された場合の利点

月例会その他、協会の会合に出席出来る。(議決権なし)。

月例会に於ての P.R. 可 (但し事前に事務局へ連絡のこと)。

— 会員の皆様へ —

次の「賛助会員勧誘先一覧表」で関係ある会員は、その会社名を至急事務局まで御連絡下さい。

現在、欄外に記入されていますのは、1.2 の方に片寄っていますので、成るべく多くの方で分担したいと存じますので、記入があつても結構です。勧誘には、別に作つた案内パンフレット、申込書を事務所に準備してありますので御申し出下さい。

— 大阪支部 —

私のふれてきた
ソ連と東欧諸国の
デザインと店舗の全く新しい傾向

"ソ連では第2次販売革命がはじまっている"

川喜田 煉七郎

◎ 3つの空からの景観

私をのせた飛行機は、ドイツのハンブルグからデンマークのコペンハーゲンに飛び、そしてはじめてソ連の大型ジェット機にのつて、モスクワ空港についたのである。

この空の旅ではからずも、(1)北ドイツのユンカー(ドイツの右翼化の元をつくつた土地貴族)の支配した大地の上と、(2)限られた特殊に民主化されたデンマークの農業地帯の上と、(3)そしてはじめてみるソ連というめつぼう大きな国の上を、見事に比較してとんだことになる。

そして、或いは私の錯覚かも知れないのであるが、そこに次のような3つの上から見た土地からうけた最初の卒直な印象が残つたのである。そしてこれをもつて、この文をはじめのもまた面白いと思うのである。

(1)の村々のあり方は、地主が零細な百姓達を支配して、追いつかい搾取し易いレイアウトが見られ、木に囲まれた小高い地主の大きな立派な家を中心で、羊でもうまく大きく囲いこむような形が、いたるところにひろがつていたのである。

(2)のデンマークでは、農地がどこまでも平等に区切られ、その農地毎に点のように百姓屋が必ずついている。ところどころ共同の酪農工場が見られるが、その各々の家の前まで、コンクリートでかためた細い立派な道がついている。

(3)ところがソ連にはいると、(1)とも(2)とも全く違つていたのである。イナヅマのように太い道が、平地も森も川も踏みこえて、大きく大きく一面に大地を切つている。そこから小道がまた別れていて、その先きに袋のような集

団が方々に必ず見られる。森はその部分だけ木を切られ、土地は爪で一面キズをつけたような人工の改革がほどこされている。

荒涼とした平原と森と大地、千古以来の深い深い森、その間に鉄道みたいなものが、わずかに一本ところどころやつと通っている。と出発前の想像していた景観は、全く裏切られたのである。

それはアメリカのハイウエーとも、ドイツのアウトバーンとも違う。そんな点と線ではなくて、恐しく荒けずりではあるが、ともかく一面に人間の手が、自然のいたるところに加えられ、だんだんに仕上げられてゆく—— 少くもその途中の姿がハッキリと見られるのである。

資本主義国では都市が益々ふくれあがつて、都会は農村の搾取の上に、あくまでも花さいている。それを都市と農村は平等な形のまゝでバランスをとって、そのバランスの上につて全体として人間が強力に自然に立ちむかつてゆく。

都市と農村の間の矛盾の根絶、その対立の全くの解消、土地全体にわたる天然資源や動力、原料基地の利用、それによる新しいタイプの人間の仕事と居住の発達、農村も都会もない工業的なものの均等なレイアウト — 等のユートピアが着々と実行にうつされていることの、それは証拠ではなかつたであろうか。

◎ デザインの3つの変革

俗は遠見はきれいだが、近くへゆけばきれいでも何でもないし、ケムシもないよう。ソ連が社会主義革命を実行してからわずかに半世紀、その間に第2次大戦による大破壊があつたり、国防的な原爆や宇宙の開発に金を集中させてしまつて、消費物資の生産がおくれたり、「社会主義リアリズム」と称する官僚主義的政治的な現実が、実際面の合理性をいとも簡単にひんまげてしまつたりして、飛行機からおりて近々と現実にあつたかるとその理想の姿は、たしかにけしとんでゆくのである。

しかしこの半世紀の間に、デザインの方からいうと、3つの変革が、そこにあつたのである。それは1910年代から1960年代にかけ、5ヶ年計画をエボックとして、次の表のような3期の変革が行われた。 とみること

ができるのである。

1910年代	社会主義革命なる
1920年代 ネップ政策の採用 〔第1期〕レーニンの死 コルホーズ創立 〔第1次5ヶ年計画〕	タトリン第3インターナショナル記念塔 構成主義建築雑誌「サ」(CA)の発刊 構成主義の建築団体「アスノバ」・「アルウ」 「オサ」の結成 ウクライナ大衆楽劇劇場の世界的コンプチション
1930年代 〔第2次5カ年計画〕 スタハーノフ運動 〔第2期〕〔第3次5カ年計画〕 第2次世界大戦はじまる	ソヴェト・パレスのコンプチション(ヨーフファン の折衷主義の1等当選) 第1期モスクワ地下鉄建設〔社会主義リア リズムの抬頭〕〔レーニンからビョートル 大帝へのスローガン。 (大型パネル工法はじまる)
1940年代 ・ナチの対ソ侵略 ベルリン陥落 〔第4次5カ年計画〕	この間中、ギンスブルグウエスニン兄弟の 抵抗的建築批判層々あり。 1941の都市・聚落の破壊。2500万 人が住居を失う。 モスクワ西南地区開発はじまる。
1950年代 〔第5次5カ年計画〕 原爆実験公表さる スターリンの死	大自然改造計画 ボルガ・ドン運河開通。モスクワに「モス クワ大学」をはじめとするスターリンシス テムの高層建築群竣工。

〔第3期〕 フルシチヨフ建築界批判 (雪どけはじまる) — 1954年— 〔第6次5カ年計画〕 第6次5カ年計画をやめ 新7カ年計画発表さる。	技術家とデザイナーとのミゾ益々ふかまる。 プレファブ建築一般化 軽量薄肉大型パネル工法の機械発明さる。
1960年代 〔第2次販売革命おこ る〕 〔部分核実験停止条約 調印〕	フルシチヨフのロバのしつぽ論争 ・ホテル・ユノスチ ・ピオニール宮 ・映画館ロシア ・百貨店モスクワ } 等、新建築ぞく ぞく建設

◎ 社会主義的な生活が販売をまた規定してゆく

ソ連では、資本主義社会のような立派に独立した個人経営の店は見られない。国家がすべてを管理し統一してゆく。住居の問題も独立した個人の家というものはドンドンなくなつてゆき、前に空中から見たような理想で、新しいタイプの仕事と居住の問題を、社会的に平等に解決してゆこうとしている。

この問題は新しく生れ、ソ連の中で育つてゆく若い人々の間では、常識化してゆく傾向がある。「ドーム・コムーナ」の建設とその生活がそれをよく説明している。

個人用の台所をけずつていて、豊富な楽しいタベモノがどのホールでも供されるようになり、婦人はより劣る個人の食事のために労働することのやっかいさを悟つて、完全に解放され、テレシコワのような新しいエポックの婦人を生んでゆこうとする。

ソ連のスーパーマーケットでは、だから食事の原料である食料品を自由に売場からもつてゆくということと同時に、その食事そのものの合理的なより新しい大規模な供給の方法を、大きく問題視している。(チエツコで最近成功した大スーパーは、この理想をハッキリと実現しているのである。)

フリーエによると、人間の12の本能を完全にスピードで満足させることが第一だそうである。12の本能とは、(1)味覚、(2)触覚、(3)視覚、(4)聴覚、(5)嗅覚、(6)友情、(7)名誉心、(8)愛情、(9)父性、(10)競争の本能、(11)変化を求める本能、(12)集団に統合する本能、である。そしてこれを満足させ、それを発展させ、繁栄させるように協力する社会をつくり出すことが問題となる—というのである。そして消費と販売の方法はこの理想の上に、何よりも高くかゝげられるのである。

ピオニールの集団教育は、国家の子供としてこの社会的環境の中で一定に生育した子供を生活させ、その時両親は本質的には子供に対する権力を失うが、親の寛大すぎや、やかましすぎから、社会は完全に子供を守ることになる。

こんな意味で、子供の託児所や幼稚園などの施設は徹底していて、子供と両親のために工夫した百貨店や集団店舗や商店街は方々の都会で必ず見うけるのである。(ウクライナ州のキエフでは、これが小高い丘の上にあつて、子供のあらゆる専門店がアーチの門をくゞつて両側に合計20軒、気持よくならんでいる。この街の学期始めや休暇にそなえた売出しはとてもたのしいもので、売出しの本当の社会的な意味がわかるのである。)

生活水準の概念は、第1にタベモノのこと、そして住居や着る物など物質的福祉の水準ということと、それから運輸や公共サービスを重要にふくむことになる。タベモノを扱う店は午前7時にはすでに開店しているし日曜も休まない。

自動車は金があつても仲々手にはいらないとすると、地下鉄その他の施設に思い切つて豪華に金をかけ、便利にすることになる。ソ連各都市の地下鉄の深さと立派さに我々は一驚するのである。第2に、労働の長さ緊張度、条件の問題がくる。

第3に、文化の発展度。文学・芸術・ラジオ・テレビ・舞踊・演劇・クラブ等の発展の程度である。ソ連がこれに必要以上と我々が思うほど力を入れるのはそのためである。

テレビやラジオの機械は単純であるが、ことごとく標準化している。演劇の切符はその日では到底手にはいない。2〜3日前から予約であり、皆んな実によく見よく観賞する。

第4に保健の水準、医師の診断治療、衛生措置、休息の条件の検討、体育スポーツ、社会保障と、そのことごとくを合理的に一貫した水準がある。

メガネ店のメガネの診断は無料であつて、医師と等しい。クスリは実費を払うが、もうすぐ無料になる。——という。そうなるとクスリ店は当然完全な国家管理でないとやつてゆけないことになる。

そして最後の第5に、人々の社会的、創造的な自主活動という大切な面がくるのである。

「公共サービスの諸形態はこうして益々進出して、公共給食も保育所から大学までの教育も無料になり、個人の家事は益々後退し、家庭は全面的に再編成され、労働時間は20年後には4時間以下に短縮されるだろう。」とストルミリンは予言している。そして「余暇時間の文化的な合理的な利用は労働の質をかえてしまう。精神労働と肉体労働の違いは無くなり、全体として知的に近くなりそして生産的になる。」と。

この社会主義の理想の姿に、着実に歩一歩ではあるが近づきつつあると見ることができるが、現実には実は大変で、ジグザグコースがいくつもえがかれ、これも少しづつ克服はされているが、個人の利純追及を全くはなれた店舗は、必然一種のビュロークラシー（官僚主義）におちいる危険もはらんでいるのである。

◎ 徹底した見本方式の売り場

モスクワで見た衣料の専門店の売り方は仲々面白いものであつた。それは「青年の店」と称していて、若い男性の小物・中物・大物をキチンと区別して売つていた。

ネクタイとワイシャツ・手袋・スカーフなどの小物は、壁面に一面にアン

サンプルで陳列してある。ワイシャツは更に大きさによつてわけ、全体はまるで解放されたウィンドーといった感じである。

上衣、ズボン（スラックス）、コートは、一括して寸法別に大分類がしてあり、ハンガーに一面にかけてある。その見本を充分に選択し、着替え室で何回でも着てためしてから、その番号によつて改めて注文する。すべては見本だけのディスプレイであり、係がいて質問にも答えてくれる。見本できめてから、代金を払い、商品をうけとるのである。

商品ばかり百花繚乱とあり、むしろその百鬼夜行ぶりを見せておいて実は金がなくて手が出ない。しかも流行はボンボン変つてゆく。一というのが我々の手許の現象である。これに比べたらソ連方式はまことにジミそのものである。

サービスも決して過剰ではない。ごく必要なものをよく選んで自分で買つてゆく。自分の寸法も色も消費者自身よく知つていて、セルフセレクトションが徹底している。

サービスにおけるビューロークラシー（官僚主義）については、彼等も大いに注意し警戒しその浄化につとめている。「3年前と比べたら、これでも大した変り方です。」と案内のレジナ女史は、しきりに説明する。

立派な「サービスのノート」がそなえてあつて、消費者は係のサービスぶりについて、堂々と書きこめるようになつている。「この方はこの売り場の書記長さんですが、このノートに100回も心からの感謝の言葉をかかれて貰われています。」ということである。

資本主義の店と違つてサービスが消極的になることは事実であるが、サービスも「社会的創造的な自主活動」の1つであるという観念から、「奥の方からの光つたサービス」が、まじめに考えられていることは事実のようである。

— 以下次号へ —

年額 3,600 円に

＝準会員会費値上り＝

準会員会費は一昨年 10 月正会員の会費を値上げした際、据え置きになつていたが本部活動の活潑化にともない、直接経費すらも赤字になるため、4 月の新年度より現行年 2,400 円から 3,600 円（本部 1,200 円 支部 2,400 円）に値上げすることになりました。

準会員の方々には申し訳ありませんが、御協力下さるようお願い致します。

本部事務局

〔会長 布川氏再選—
日本家具工業会—

- (1) 国及び各種機関の家具工業振興策の推進
- (2) 経営合理化及び技術の向上（研究会、巡回ゼミ、例会）
- (3) 人材教育（トップマネジメントの教育、管理者教育、専門集中研修）
- (4) 市場調査
- (5) G.F. マークのラベルの設定
- (6) 品質基準の研究
- (7) 海外視察団の派遣

会 長	布 川 隆 美氏 (富士フアニチア KK)	徳 島
副会長	赤 松 勇太郎氏 (最北精密木工 KK)	新 庄
"	隅 田 隆 治氏 (魁木材工芸 KK)	東 京
"	中 野 左 門氏 (ナカノ家具工芸 KK)	名 古 屋
"	松 崎 勲氏 (KK松崎木工)	大 阪

副会長 松 本 利 雄氏（クレセン工業KK） 呉

〃 山 浦 徳 衛氏（立春木工KK） 大川

デザイン審断の手引

—— 中小企業センターが企画 ——

日本中小企業指導センターでは木製家具工業会のデザイン審断手引書を作成することになり、今準備を進めている。

この手引書はデザインそのものを審断するのではなく、企業体としてのデザインの管理、デザイン作成のプロセス等についての審断のチェックポイントを指導するもので協会が決めたプロダクトデザインの報酬規定も挿入される予定である。

尚協会会員では、鈴木富久治、新庄晃、剣持仁、榎田均、中村圭介の五氏が協力している。

全家工連結成さる

家具生産者の全国統一組織である全家工連は2月13日丸の内東京商工会議所で結成大会を開き発足した。

この会は日家工が全国有力メーカーの同志的結合であるのに対し全メーカーを横につなぐ組織として府県単位の生産者組織の連合体で32都道府県に及び加盟する事業所数は約5,000である。

会長には森谷新一氏（モリヤ株式会社、埼玉県）、副会長に小管一郎氏（小管工業、東京）、松崎勲氏（松崎木工、大阪）が就任した。会の主な事業としては、家具製造業が中小企業近代化促進法の業種指定を受けることを重点とし、家具工場団地の結成促進をあげている。

生産額・2千5百億円に
木製家具の伸びつづく

日家工事務局調べによれば、木製家具（ベットを除く）の生産は、昨年千九百億円を突破、本年は2千5百億円に達するものとみられている。昭和30年以降の木製家具生産額は別表の通りだが、とくに36年以降大幅な伸びをつづけ、37年以降は30%以上の増加をみせている。

一方、事業所数は30年からほとんどかわらず、35年以降はわずかずつではあるが、減少しているものとみられる。また従業者は、毎年5%内外の増加をみせており、昨年はだいたい13万人台に達したものとみられる。

このように木製家具メーカーも、大勢としては、急激な伸びをみせているが、内部に眼を向けると、企業規模格差が著しくなり、従業員20名以下の企業は大幅に減少している。しかし反面30名以上の企業は増加、とくに百名以上の、いわゆる大手企業の増加が目立っている。

昨年の全国平均従業員1人当たりの月産額は約12万円であるが、これは比較的規模の大きいメーカーの生産額が大幅に増加しているためで、20人以下の小・零細企業の従業員1人当たり月産額は全国平均よりかなり下まわり、8万円前後とみられる。

（注・日家工会員メーカーの従業員1人当たり月産額は14万円）

＝日家工通信より＝

木製家具の生産額の伸び

(注. 36年までは工業統計、以降は日家工事務局調べ)

年	事業所数	従業員数	生産額 (百万円)
30	12,046	79,000	3,774.1
31	11,895	84,600	4,513.9
32	12,315	92,000	5,498.8
33	12,110	96,400	5,787.0
34	11,685	99,900	6,658.4
35	12,145	107,200	8,346.8
36	12,090	111,000	10,623.2
37	12,000	116,000	14,200.0
38	11,900	130,000	19,050.0
39			24,800.0

会 員 の 近 況

井 上 猛（プリンス自動車工業KK） 第10回全日本自動車ショーに出品されたプリンスの自動車が、フランコレ、スカリオーネと井上猛の協同設計として、1月16日付のイタリア「ラスタンパ」紙にその写真が大きく掲載されました。邦人のカーボディースタイリストが外紙に興味深く記載されたのは初めてのケースと思われます。

倉 林 益太郎（清水建設） 目黒のボーリング場「目黒パークレーンズ」の仕事を進め2月末から3月には全部完成予定です。

中 村 圭 介（フリー） (1)信販ゴルフ営業所室内設計、(2)柴田書店ホール設計、(3)鈴木富久治、新庄晃、榎田均、剣持仁、諸氏と中小企業指導センターの依頼によるデザイン審断に関する指導書（企業におけるデザインプロセスの改善）を作成中です。

中 井 太一郎（KK新和） 防衛庁の勤めも、2月4日で正式に退職し、協会員である中西三郎氏のKK新和、総合デザイン研究所で設計部を担当なさることになりました。

竹 内 篤（フリー） 日本産業巡航見本市協会より第5回巡航見本市の会場ディスプレイを受けた豊口デザイン研究所の囑託の形で、協会員の鎌田祐氏と産業ブースの計画に昨年8月から参加され3月中旬から4月24日迄神戸三菱造船の

現場に出張されます。東京晴海入港は4月26日頃の予定
です。（会員の皆様も機会がありましたら御覧下さい）

内 堀 繁 生（西武百貨店、サリナ） インドネシア国立サリ
ナデパート設立計画のため2月17日に出発し、約2ヶ月間
同国に滞在されます。

佐 藤 保 嘉（三越札幌支店） 自宅住所を下記の通りお知ら
せ致します。

札幌市南十条西十八丁目 三越社宅



その他のお知らせ

☆白木屋、東横の設計関係が2月1日より一本化となりました。

白木屋設計室

東横百貨店設計室

白木屋家具装飾課

東横百貨店家具装飾課

白木屋商品企画室

が株式会社東横商事部

家具装飾課設計室となりました。

場所 渋谷区上通り2の55 宮益坂ビル地階

電話 (461) 0111 1171 1181 1191 内線(276)

直通(401)2153

事務局だより

☆今度会報を東西合同で発行することになりました。原稿はそれぞれの事務局が担当致しますのでよろしく御協力のほどをお願い致します。

☆所得税の確定申告の申請は3月16日までです。会員の皆様も大変頭が痛いことと思います。お勤めで年末調整された方で、原稿料や設計料（支払が法人で受領者が個人の場合は支払者が10%の税を源泉徴集して収めなければならない）等の収入があり源泉徴収票がお手元に送られて来ていて、税務所から申告するように言つて来ない方は大体税金を収め過ぎている方で、申告すれば返してくれますから念のためにお調べ下さい。そのかわり、次回からは必ず申告するよう用紙を送つてきてくれます。尚、設計料の必要経費ですが会計帳簿をきちんとつけて収支が明らかであれば問題でないのですが、そこがどうもデザイナーの弱いところ。フリーの2.3の者の意見をまとめて見ても収入の30%は必要経費として明細なしでも認めることは確実35%位まで大丈夫の場合もあります。従つて申告にあたつては設計料、原稿料等もその程度は経費として落すようにしましょう。

☆今月から作品登録用紙を毎月つけることにします。切り取つて必要事項を記入し写真と共に事務局にお送り下さい。当面両支部事務局で受付けます。

☆業務及び報酬規定、大変長いことかかりましたがようやく決定をみました。近くプリントして皆様にお送りすると共に会報にその解説をのせます。

日本室内設計家協会東京支部

東京都港区芝田村町5の15 今成ビル内

TEL (431) 4903

振替東京76389